

総合教育会議の各連携事項の進捗状況について

資料5

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
幼保小 「連携」から 「接続」への 発展	<p>《31年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アプローチカリキュラムの作成・普及 ・重点推進園(モデル実施園)でのアプローチカリキュラム検証 ・普及イベント開催 ・事例集作成・アプローチカリキュラム作成の手引き改訂 <p>○スタートカリキュラムの改善</p> <p>○「幼・保・小関連教育推進事業」等を通じた連携・交流活動</p> <p>○家庭と保護者に対する啓発・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発リーフレット配布及び講演会開催 <p>○子どもに関する情報共有の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内共通教育・保育施設版「個別の教育支援計画(特別な支援の必要な子どもの教育支援計画)」の改訂 ・連携サポートリスト(医療的ケアが必要な子どものリスト)の作成 <p>《30年度まで》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アプローチカリキュラムの作成・普及 ○スタートカリキュラムの改善・普及 ○「幼・保・小関連教育推進事業」等を通じた連携・交流活動 ○家庭と保護者に対する啓発・支援 ○子どもに関する情報共有の円滑化 	<ul style="list-style-type: none"> ■アプローチカリキュラムの作成・普及 ・重点推進園(モデル実施園)の取組継続 ・カリキュラムコーディネーターによる支援 <ul style="list-style-type: none"> ■スタートカリキュラムの改訂 <ul style="list-style-type: none"> ■連携・交流活動の普及・定着 <ul style="list-style-type: none"> ■家庭と保護者に対する啓発・支援 <ul style="list-style-type: none"> ■市内共通教育・保育施設版「個別の教育支援計画」の作成 	<p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1)カリキュラムの改善・普及 ・重点推進園(モデル実施園)の取組成果の共有 ・モデルカリキュラム(千葉市版アプローチカリキュラム)の効果的発信 <ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムの全体計画の中での位置づけ (2)保育士・教諭、子ども同士の連携・交流の強化 <ul style="list-style-type: none"> (3)家庭と保護者に対する啓発・支援 <ul style="list-style-type: none"> (4)子どもに関する情報共有の円滑化 ・市内共通教育・保育施設版個別の教育支援計画の幼稚園・保育所等における共通理解及び作成

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
子どもの 貧困対策の 推進	<p>《31年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもナビゲーターと連携する学校を拡充(中央区1校) ○学校外教育バウチャー事業の実施 ○教育課程外の学力保障に向けた取組の実施・効果検証(若葉区) ○生活保護世帯等学習・生活支援事業:拡充(生活支援等の新規実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもナビゲーター 	→	<p>(1)気づき・つなげるための視点の共有、連携方策 ・子どもナビゲーター事業の効果的な運用</p> <p>(2)家庭学習の推進 ・家庭環境や生活習慣の改善と学力との関連性について、主に、「子どもナビゲーター事業」との関わりの中で分析 ・子どもナビゲーターと連携した学力向上アクションプランの作成</p> <p>(3)教育課程外の学力保障に向けた取組 ・「長期休業中における集中的な学習支援」と「放課後における継続的な学習支援」の効果検証</p>
	<p>《30年度まで》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもナビゲーターとモデル校(山王小)との連携 ・「学力向上アクションプラン」の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ナビゲーターと連携した学力向上アクションプランの効果検証・改善 	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ○生活保護世帯等学習・生活支援事業:拡充(生活支援等の新規実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校外教育バウチャー事業の推進 	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用して、習熟度に応じた学習の推進に向けた取組を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■教育課程外の学力保障に向けた取組の継続実施・効果検証 	→	
	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を推進するための普及・啓発事業:継続 ○教育課程外の学力保障に向けた取組の検討 ○生活保護世帯等学習支援事業:拡充(平日→平日及び土曜日) 	<ul style="list-style-type: none"> ■学習・生活支援事業(土日開催の実施(2か所→6か所)、生活支援等 	→	

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
オリンピック・ パラリンピック を契機とした 「まちづくり」 「ひとづくり」	<p>《31年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリパラ応援作品の制作 ○学校観戦プログラム事業検討 ○都市ボランティアの育成・実践 ○科学館でのアスリートによる講演 <p>《30年度まで》※31年度継続実施</p> <p>1 大会気運高揚事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校給食「オリパラ応援メニュー」の実施 <p>2 体力向上・健康づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市立全小中学校の授業でパラスポーツ実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボール、シッティングバレーボールの教員研修。(31年度:車いすバスケットボール追加) ・車いすバスケットボールの巡回(31年度:最大小学校32校、中学校16校で実施可能) ●アスリートの学校訪問、パラスポーツ観戦 ●科学館でスポーツ科学の展示 <p>3 多様性理解教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パラリンピック関連の教材を活用した道徳等授業の充実 ●オリパラ関連講座の開催 <p>4 国際理解教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オリパラ英語教材を活用した外国語・外国語活動の充実 ○「オリパラ教育実施方針」の策定(28年度) ○オリパラ教育実践校として全171校を指定(29年度) 	<p>1 大会気運高揚事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■オリパラ応援作品の制作 ■学校観戦プログラムによるオリパラ観戦 ■学校給食「オリパラ応援メニュー」の実施 ■都市ボランティアの育成・実践 <p>2 体力向上・健康づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■市立全小中学校の授業でパラスポーツ実践(教員研修含) ■アスリートの学校訪問、パラスポーツ観戦 ■科学館でスポーツ科学の展示 <p>3 多様性理解教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■パラリンピック関連の教材を活用した道徳等授業の充実 ■オリパラ関連講座の開催 <p>4 国際理解教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■オリパラ英語教材を活用した外国語・外国語活動の充実 	<p>ボランティア文化・体制等の承継、振興</p> <p>オリパラ終了後継続実施</p> <p>オリパラ終了後継続実施</p> <p>オリパラ終了後継続実施</p>	<p>・関連事業等の着実な展開、大会終了後の継続</p>

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
子どもたちの 放課後の充実	<p>《31年度》</p> <p>○放課後子ども教室・子どもルーム一体型モデル事業の拡充(1校→6校)</p> <p>○放課後子ども教室・子どもルーム一体型事業6校拡充に向けた開設準備</p> <p>○子どもルームの拡充(増設・教室改修等)</p> <p>○子どもルーム委託先の多様化(4か所→16か所)</p> <p>《30年度まで》</p> <p>○放課後子ども教室・子どもルーム一体型モデル事業開始(H29:稲浜小1校)</p> <p>○放課後子ども教室活動支援モデル事業開始(H28:10校で開始→H30:17校)</p> <p>○「放課後子どもプラン」策定</p> <p>○「子どもルーム待機児童解消のための緊急3か年アクションプラン」策定</p> <p>○子どもルーム委託先の多様化(民間事業者へ委託開始:4か所)</p> <p>○民間補助メニューの拡充(開所経費補助)</p>	<p>■一体型事業 6校開校(全12校)</p> <p>■放課後子ども教室活動支援モデル(15校)</p> <p>■子どもルームの拡充:継続</p> <p>■子どもルームの委託先の多様化(27か所)</p> <p>■高学年子どもルームの環境改善</p> <p>■子ども子育て支援システム運用開始</p>	<p>■放課後子どもプラン中間見直し</p> <p>→ 6校開校(全18校) →</p> <p>検討</p> <p>検討</p>	<p>(1)放課後子ども教室 ・校庭を中心とした放課後の学校施設の活用方法の検討</p> <p>(2)放課後子ども教室・子どもルーム一体型事業 ・活動場所等が確保できない学校への拡充方法 ・安定した運営のための利用料金の設定 ・プラン見直し時にH34以降の拡充について検討</p> <p>(3)子どもルーム ・余裕教室の活用を基本とするが、利用児童数が多い学校は、余裕教室が少ない。 ・施設には余裕があるものの、指導員が不足しているため、受入枠を拡大できないルームがある。 ・図書室などの特別教室を学校教育との共用で利用している高学年子どもルームは施設面・運営面ともに支障がある。</p>

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
地域経済・地域 産業を 支える人材の 育成・確保	<<31年度>> ○職業体験学習の充実 ○キャリア教育推進連携会議:継続 ○キャリア教育主任研修会:継続 ○課題解決型の教員研修:継続 ○専門高校との連携強化:継続 ・中学生向けリーフレット等の作成 ○高校生の保護者の理解促進事業: 新規	■「千葉市のキャリア教育」 に基づく施策の実施 ■キャリア教育推進連携会 議の開催 ■キャリア教育主任研修会 開催 ■課題解決型の教員研修 充実 ■専門高校との連携強化 ・中学生向けリーフレット等 の作成 ・体験入学への参加者拡大		(1)キャリア教育の計画的な推進 ・雇用等の社会ニーズを踏まえた キャリア教育の取組み ・業界団体と連携したキャリア教育 (2)中学校職業体験学習の質的・量的 な見直し (3)産業系専門高校との連携 ・教員、生徒の産業系専門高校へ の理解度を上げる。
	<<30年度まで>> ○産業人材育成事業(高校生対象バス ツアー、技術職等の啓発冊子 作成):新規 ○キャリア教育主任研修会:継続	■千葉県インターンシップ推 進委員会活動支援 ■ちばっ子商人育成スクー ル ■技術職等の魅力啓発冊子 作成 ■高校生対象企業見学バス ツアー ■高校生の保護者の理解促 進事業		

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
地域社会全体 で子どもの 成長を支える 仕組みの整備	<<31年度>> ○学校支援地域本部の拡大 (10区26校→13区36校) ○千葉県版コミュニティ・スクールモデル校の 設置準備 <<30年度まで>> ○学校支援地域本部の設置 (10区26校) ○地域運営委員会との連携 ○千葉県版学校運営協議会(コミュニティ・ス クール)基本方針等の検討	○学校支援地域本部の拡大 (10校)	○学校支援地域本部の拡大	(1)学校支援地域本部の拡大と活動の充 実 ・コーディネーターの人選と確保 ・コーディネーター研修の充実 (2)千葉県版学校運営協議会(コミュニティ・ス クール)の検討 ・学校運営協議会規則の制定 ・教職員、地域関係者への理解の促進
		○千葉県版コミュニティ・スクールモ デル実施	→	

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課 題
		32年度	33年度	
本市のアイデンティティ醸成につながる郷土教育等の推進	<<31年度>> ○海の副読本制作 ○「わたしたちの千葉市」の全面改定 ○郷土教育に関する教員研修の充実 ○郷土教育の拠点としての博物館の充実及び利用促進 ○市民の目に留まる情報発信や講座・イベントの拡充 ○加曽利貝塚の史跡整備	■都市アイデンティティ戦略プランの見直し ■「わたしたちの千葉市」の定期改訂	■第3回千葉氏サミット	(1) 授業で実際に活用できる郷土の素材、指導案等の事例を集積し、研修会等で提示していく必要がある。 (2) 児童が本市のアイデンティティをより深く理解できるよう、「わたしたちの千葉市」の改訂における的確な編集作業を徹底する必要がある。
	<<30年度まで>> ○4つの方向性に沿った多様な事業展開の拡充 ①「千葉氏」「加曽利貝塚」等の魅力の掘り起し、魅力向上 ②学校教育における郷土教育の充実 ③郷土教育の拠点としての博物館の充実及び利用促進 ④市民の目に留まる情報発信や講座・イベントの拡充 ○千葉常胤生誕900年記念行事開催 ○第2回千葉氏サミット開催 ○千葉開府900年に向けたロードマップ策定 ○加曽利貝塚ランドデザインの策定及び史跡整備			

項目	平成31年度及びこれまでの 主な取組み・進捗状況	33年度までの見通し		課題
		32年度	33年度	
学校における働き方改革について	<<31年度>> ○働き方改革プランの浸透 ○教員の業務の明確化・適正化(外部による調査の検討) ○専門スタッフ配置の最適化 ○自動応答電話の導入、閉庁時間、閉庁日の設定 ○地域人材活用			(1)「学校における働き方改革プラン」を学校現場の教員に浸透させていくか (2)プランの具体的取組みについて、地域・保護者に発信し理解と協力を求める (3)具体策の効果を実際の現場の教員の負担とならないようどのように検証していくか
	<<30年度まで>> ○チーム学校推進委員会の取組み ・「学校における働き方改革プラン」の策定・公表 ○各WG(部活動、特別支援教育、生徒指導、学習指導、環境整備)の取組み ・部活動ガイドラインの策定 ・タイムレコーダ導入による出退勤管理、 在校時間報告 ・専門スタッフの配置に関する調査		■目標達成状況確認 ①教員の月平均在校時間を29年度の平均から10時間以上削減 ②月平均在校時間45時間越えの教員の数を29年度の割合から3割削減	